

吉野・堺・灘～桶樽と日本酒の物語

蔵のある奈良県吉野郡は昔から林業の盛んな地域でした。蔵の横を流れる吉野川上流にある川上村は、室町時代から500年の植林の歴史を持つ林業地域で、桶の部材である「樽丸」の産地として発展してきました。樽丸は吉野川を筏で下り、海に出てから西宮・堺へと運ばれ、樽は西宮で、桶は堺で作られ、名醸地の灘に運ばれ酒造りに使われ、その技術は今も受け継がれています。地域をまたぎ、森から木材、樽丸から桶樽、そして酒づくり、それを供する店まで、物語は続きます。



菊正宗「マイスターファクトリー」

酒造りの過程から用具類に至るまでの知識や現物とのふれあい、灘の酒を醸す技・水・米・風土、酒造りの情熱や伝統にまつわるこだわり、また日本酒をめぐる新しい楽しみ方や文化の姿・・・など現在・過去・未来を自在に駆けめぐれる日本酒の世界を展開し、「知るは楽しみなり」をあますことなく感じ取れる空間です。

<http://www.kikumasune.co.jp/tarusake-mf/>



吉野林業

日本の造林発祥の地である奈良県吉野地域には、約500年にわたって培われた造林技術で育まれた美しく重厚な森があります。日本遺産「森に生まれ、森を育んだ人々の暮らしとところ～美林連なる造林発祥の地“吉野”」として登録されました。



美吉野醸造

吉野林業の地元の蔵元で、吉野杉を使った木桶仕込みの酒造りを復活させました。

<http://www.hanatomoe.com>



剣菱

暖気樽職人の育成等もしながら、甑・麹蓋・暖気樽等を用いた昔ながらの酒造りを実践しています。

<http://www.kenbishi.co.jp/story/>





清光林業

吉野地域では、室町時代より長年にわたり優れた林業技術が開発・伝承されています。その起源は、主に桶・樽の材料を生産する「樽丸林業」として発祥した林業です。



吉野中央木材

美吉野醸造が吉野杉を使った木桶を復活させる「吉野ウッドプロジェクト」に参画しています。
<http://www.yoshinostyle.com>



春亮木材

灘や伊丹などにおける酒造りで使われる酒樽の側板を供給するために、「樽丸」生産は江戸時代中期に始まったとされます。春亮木材の春増氏は樽丸づくりの技を今に伝えています。



吉野杉の家

旅行者と宿泊先をつなぐ「Airbnb」と吉野町がコラボレーションして建設されました。吉野の山から伐り出した木を使い、地元の大工と職人の手で作られました。

<https://www.yoshinocedarhouse.jp/>



ゲストハウス三奇楼

旅人や木材を運搬する筏師たちの疲れを癒す宿として利用されていた元料亭旅館をリニューアルしたゲストハウス。吉野の街並み・暮らしを体感できます。
<http://sankirou.com/>



山中酒の店・佳酒真楽さかふね

全国の木桶仕込みの酒蔵の日本酒を取りそろえる酒店。飲食店舗の装飾も大桶のリユース材で装飾を行っています。

<http://yamanaka-sake.jp/sakafune/>

長野・軽井沢～懐かしくて、新しい、木と森が迎える国内有数のリゾート

避暑地として著名な軽井沢。豊かな自然に恵まれた軽井沢から歴史の街・上田や善光寺のお膝元・長野までをつなぐ、木をふんだんに使った列車や洗練されたラウンジが優雅なリゾート気分を盛り上げてくれます。ゆったりと時間を過ごすリゾートでは、ハルニレテラスのウッドデッキでの買い物や自然に親しむプログラムが、都会の喧騒を忘れさせてくれるでしょう。玄関口の長野駅では来訪者を大庇が迎え、善光寺参りの拠点となっています。



しなの鉄道軽井沢駅 [map1](#)

しなの鉄道軽井沢駅の建物は1997年の長野新幹線開業に伴って取り壊された旧駅舎を、明治43年(1910年)当時の姿で軽井沢町が復元したものです。かつて「旧軽井沢駅舎記念館」の貴賓室だった2階は、観光列車「ろくもん」乗客のラウンジとなっています。高級感が漂う調度品が乗客をお迎えます。

しなの鉄道ろくもん

ろくもんは自然と文化に恵まれた軽井沢から歴史の街・上田や善光寺のお膝元・長野までをつなぐ懐かしくて新しい、楽しい列車。2人・4人掛けの対面席やソファ席、中央には木のボールに埋まって遊べる「木のプール」を設置しています。地元のレストランが参加する食事メニューのコースは、軽井沢発長野行きは洋食のコース、長野発軽井沢行きは懐石コースで名店のシェフが監修しています。

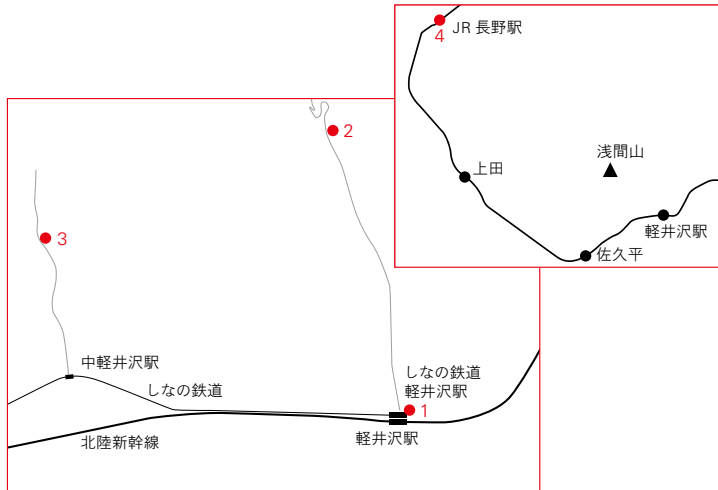
<https://www.shinanorailway.co.jp/rokumon/>



旧三笠ホテル [map2](#)

日本人による設計・施工の純西洋式の木造2階建てのホテル。1905年(明治38年)に竣工し、多くの文化人・財界人が宿泊しました。建築資材も現地のアカマツを使うなど、日本の素材によって完成されたホテルです。

重要文化財・旧三笠ホテル 長野県北佐久郡軽井沢町大字軽井沢1339-342
軽井沢町公式HP <https://www.town.karuizawa.lg.jp/>



軽井沢星野エリア

ハルニレテラス map3

湯川の清流に寄り添うように自生している約100本のハルニレ(春楡)の木立を生きしながら、9棟のモダンな建物をウッドデッキでつないだ「小さな街」。「軽井沢の日常」をコンセプトにした、16の個性的なショップ、レストランが、軽井沢での滞在を豊かに彩ります。

長野県軽井沢町星野

<http://www.hoshino-area.jp/shop>



JR長野駅 map4

仏都長野の玄関口にふさわしい長野の門を表現した大庇(おおびさし)・列柱と、善光寺にゆかりのある如是姫(にょぜひめ)像を据えた中央広場が、来訪者をお迎えます。開放的な空間に、雨や雪に濡れずに移動できる雨よけが配置されています。広場内の各施設は木のぬくもりを感じさせるものになっています。



ピッキオ map3

ピッキオは「森の価値を高め、守ることを目標に、森の生き物との出会いをサポートし、その面白さや不思議さに触れるネイチャーツアーを開催しています。軽井沢星野エリアの一角、森からの沢水でできた「ケラ池」のほとりに拠点があります。

長野県北佐久郡軽井沢町星野

<https://picchio.co.jp/>



ブナの森とヒバの森～癒しと健康、五感への贈り物

白神山地は世界最大級のブナの原生林と貴重な動植物が生息する生態系を有する地域として、1993年に日本初の世界自然遺産に登録されました。また、雪の多い地方でなければ育たないと言われる青森ヒバは、北の厳しい環境でゆっくりと成長するため、緻密で木目の細く美しい木になります。ここでは、ブナとヒバを堪能できる場所や製品を訪ねて、心を癒し、五感を研ぎ澄ます旅を選んでみるのも新鮮です。



アソベの森いわき荘 map1

「アソベの森」と古くからそう呼ばれてきた、神が宿る山・岩木山に抱かれるように佇む宿・アソベの森いわき荘。温泉浴室は青森ヒバの丸太で小屋を組み、湯縁、浴槽も青森ヒバで造られています。食事処はブナの枝とアケビ蔓で編み上げた照明が印象的です。築100年の古民家を再生した食事処には本格的な籠と囲炉裏を設け、オープンキッチンで地元の酒と料理を提供しています。
青森県弘前市大字百沢字寺沢28-29 <http://www.iwakisou.or.jp/>





鶴の舞橋 map2

津軽富士見湖の兩岸を結ぶ全長300メートル、総ヒバ造りの三連太鼓橋。橋脚には樹齢150年以上の青森ヒバ700本を使用し、日本古来の建築技術を駆使してつくられました。堤長は4,178メートルと、その長さは日本一です。周囲の風景に溶け込み、水面に映るその姿は見る人を魅了します。

<https://www.medetai-tsuruta.jp/spot/sightseeing/tsurunomaibridge.html>



BUNACO(ブナコ)

「地域の豊富なブナ資源をどう有効活用しよう」この考えがBUNACOが生まれた背景です。ブナをかつらむきのように薄いテープ状に加工し、ぐるぐる巻きながら成型していく変わった製法で薄さはなんと1ミリ。むく材を削り出して作る従来の方法より、ブナ材のテープを使用しそれをコイル状に巻き少しずつスライドする事で同じ形態を作り出し、照明器具を始め、様々なプロダクトを生み出しています。

ブナコ株式会社 青森県弘前市豊原1丁目5-4 TEL:0172-34-8715 FAX:0172-36-1119

<http://www.bunaco.co.jp/> <http://www.facebook.com/bunaco.jp>



五能線「リゾートしらかみ」

青森県川部駅と秋田県東能代駅を結ぶ五能線を走るリゾート列車。展望室はブナコや秋田木工といった秋田・青森県産の工芸品やシンボルツリーにより非日常的な空間を演出。地酒などの地産品が買え、その場で楽しめるカウンターも車内に設けています。

<https://www.jreast.co.jp/akita/gonosen/>



地域のアンテナショップが伝える木のおもてなし

都心で感じる地域の魅力、文化、人、素材、味。各アンテナショップでは木を利用して上質な空間をつくりだし、さまざまな体験やコミュニケーションに取り組んでいます。ここで地域の魅力に気づいたら、次は現地へ足を運び、産地を訪ね、人に会い、滞在や買い物をしたくなる。本物を味わうための本物の空間は、木の温かみと人の温かみこそで実現できるのです。



NOCO(銀座NAGANO)

銀座ずらん通りに位置するNOCOの外観はまるで木の積層体。不燃都市銀座では出会えなかった木の温もりには人は足を留め、自然の安らぎを想います。店舗も木や自然に因むものばかり。銀座NAGANOは長野県の新感覚アンテナショップ。信州の木のぬくもりあふれるイベントスペースで、長野県産材を使用したワークショップや、木工クラフトフェアなど、木を通じて豊かに暮らすためのイベントを実施。座り心地のよい工芸のウッドチェアで珈琲も楽しめます。

東京都中央区銀座5-6-5

問い合わせ先:

株式会社アイシン TEL 03-6274-6431

銀座NAGANO <https://www.ginza-nagano.jp/>

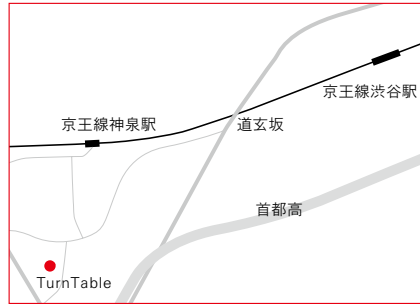




日本橋とやま館

富山県の新たな情報発信拠点として、2016年6月に東京・日本橋に開館。「富山の上質なライフスタイル」を体感できるように、壁には和室の襖に使用する「しけ絹」が用いられ、観光交流サロンには「井波彫刻の欄間」が設置されています。また、「トオリニワ(土間)」をイメージした交流スペースには、立山連峰の山並みを表現した長さ30mの木の格子壁があるほか、和食レストランには、県産木材を使用した床材、テーブルディスプレイ棚や「海越しの立山連峰」を表現した美術組子があります。こうした館全体に配置された木材の香り、温かみ、デザインが、来館者に富山の上質な暮らしや木の素晴らしさを自然な形で感じさせ、自然豊かな富山への期待や興味を高めています。

東京都中央区日本橋室町1-2-6日本橋大栄ビル1F TEL 03-6262-2723 <https://toyamakan.jp/>



TurnTable

徳島の食材を提供するレストラン、交流ラウンジ兼マルシェコーナー、宿泊施設を有する施設です。「モノではなくヒトからの情報発信へ」をテーマに、食や宿泊を通じて、徳島の持つ価値を利用者に体験してもらい、その魅力を発見、発信し、旅行や移住など、徳島への回帰を誘発します。レストランの長テーブルや床など内装は徳島県神山町から伐り出した杉の木一本を無駄なく使い創り出され、他にも藍染ののれん等、徳島県の伝統文化を感じさせる内装が来訪者をもてなします。

東京都渋谷区神泉町10-3 TEL 03-3461-7733(ホステル) 03-3461-7722(レストラン) <http://turntable.jp/>

「木の文化・木のおもてなし」ガイドブック

発行元:

公益社団法人 国土緑化推進機構

株式会社 ユニバーサルデザイン総合研究所

林野庁補助事業

デザイン: 則武弥 (ペーパーバック)

印刷・製本: 株式会社サンワ

記載内容・写真等の無断転載・複写を禁じます



